



平成22年4月21日（水）

荒川水系渇水調整協議会

（事務局：関東地方整備局）

記者発表資料

平成22年度 第1回荒川水系渇水調整協議会 （春季定例会）の開催結果について

荒川水系渇水調整協議会（春季定例会）開催される

今後の対策等について確認

- 開催状況 日時：平成22年4月21日（水）11:10～12:00
場所：さいたま新都心合同庁舎2号館 14階 災害対策本部室
協議会構成：国土交通省関東地方整備局、東京都、埼玉県、独立行政法人水資源機構
協議会の目的：荒川水系の渇水時における円滑な水需給の調整を図る。
- 現状と今後の見通し（詳細は、別添概要書参照）
 - ・ダム貯水状況 荒川4ダムでは、平年を上回る貯水量（7,307万 m^3 平年比111%）
※平年比は3ダム（二瀬ダム、浦山ダム、荒川貯水池）に対する割合。
 - ・今後の見通し 荒川4ダムの貯水量は平年を上回っていますが、これからは水需要の多い時期となることから、今後の降雨状況によっては、ダムの貯水量が不足すること考えられます。
- 今後の対策（詳細は、別添概要書参照）
 - ・ダム等水資源開発施設については、きめ細かな水運用を行っていく。
 - ・必要に応じて、節水協力の要請と取水制限等の機動的な対応を行っていく。

発表記者クラブ

埼玉県政記者クラブ、竹芝記者クラブ、
神奈川建設記者会、東京都庁記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 河川部水政課	住所 〒330-9724 埼玉県さいたま市中央区新都心2-1 さいたま新都心合同庁舎2号館
水政調整官 小黒晃彦（内線）3515	
水政課長 渡邊猛雄（内線）3551	電話
建設専門官 杉原郁夫（内線）3557	（代表） 048-601-3151
河川部河川環境課	（水政課夜間直通） 048-600-1334
河川環境課長 高橋克和（内線）3651	（河川環境課夜間直通） 048-600-1336
建設専門官 吉川宏治（内線）3652	
国土交通省 荒川上流河川事務所	住所 〒350-1124 埼玉県川越市新宿町3-12
副所長 丸山勝（内線）205	電話 （代表） 049-246-6371
管理課長 野路一（内線）331	

平成22年度第1回荒川水系渇水調整協議会（春季定例会）の開催結果について（概要）

1. ダムの貯水状況と今後の見通し

平成22年1月からの降水量と荒川4ダムの貯水量状況は、表のとおりで、降水量、貯水量とも平年を上回っています。

	累加降水量	平年比	備 考
降水量 (1月から3月まで)	219mm	155%	平年を上回る (S40~H21平均)
荒川4ダムの貯水量 (4月20日9時現在)	7,307万m ³ (貯水率51%)	111%	平年を上回る (H12~H21平均)

※平年比は3ダム（二瀬、浦山、荒川貯水池）に対する割合。

荒川4ダム貯水量の内訳

ダム名	貯水量 (万m ³)	貯水率 (%)	平年比 (%)
二瀬ダム	1,730	87	118% (H12~H21平均)
滝沢ダム	1,210	21	—
浦山ダム	3,347	60	80% (H12~H21平均)
荒川貯水池	1,020	100	105% (H12~H21平均)

荒川4ダムの貯水量は平年を上回っていますが、これからは水需要の多い時期になることから、今後の降雨状況によっては、ダムの貯水量が不足すること考えられます。

2. 今後の対策

① 荒川ダム群においては、今後の降雨状況、農業用水や都市用水の水利用を踏まえて、きめ細かい運用を行っていきます。

このため、荒川ダム群の貯水量の状況や降雨状況の情報提供を引き続き、積極的に行っていきます。

② 荒川水系渇水調整協議会としては、必要に応じ幅広い広報活動を通じて節水の協力を要請していくとともに取水制限等の調整が必要になった場合には、機動的に行っていきます。

※ ホームページでも情報をお届けしています。どうぞご利用下さい。
<http://www.ktr.mlit.go.jp/river/shihon/index00000010.html>
 (首都圏の水資源情報 他)

荒川水系渇水調整協議会

会 長 国土交通省関東地方整備局河川部長

副会長 国土交通省関東地方整備局河川部広域水管理官

〃 東京都都市整備局都市づくり政策部長

〃 埼玉県企画財政部地域政策局長

委 員 国土交通省関東地方整備局河川部水政課長

〃 〃 〃 河川計画課長

〃 〃 〃 河川環境課長

〃 〃 〃 河川管理課長

〃 〃 荒川上流河川事務所長

〃 〃 荒川下流河川事務所長

〃 〃 二瀬ダム管理所長

〃 東京都都市整備局都市づくり政策部副参事

(水資源・建設副産物担当)

〃 〃 建設局河川部計画課長

〃 〃 水道局総務部施設計画課長

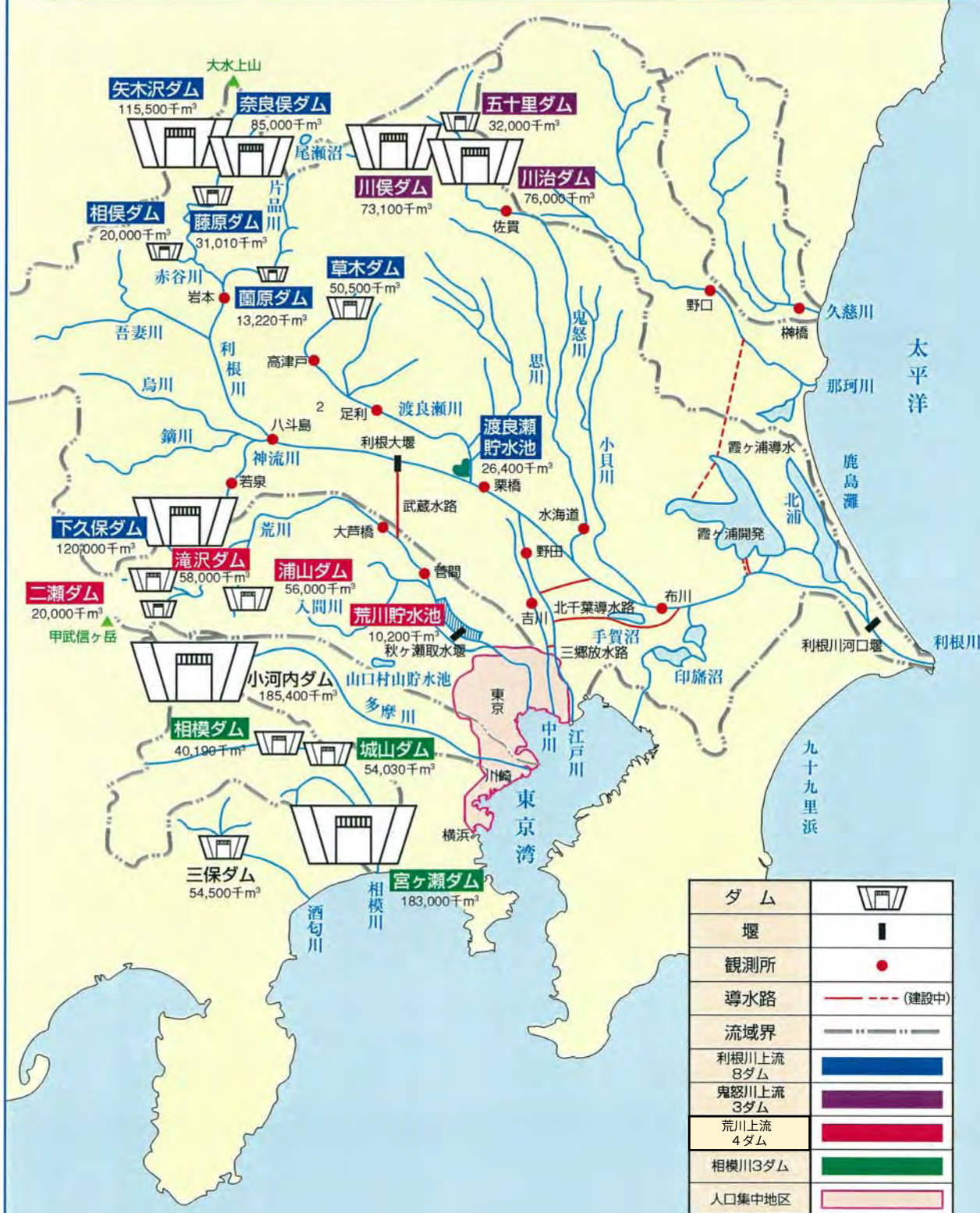
〃 埼玉県企画財政部土地水政策課長

〃 〃 県土整備部水辺再生課長

〃 独立行政法人水資源機構管理事業部管理企画課長

〃 〃 利根導水総合事業所長

関東地方の主要な河川と水資源開発施設



荒川ダム群等の現況と今後の対策（案）について



二瀬ダム(平成22年3月24日撮影)

平成22年4月21日

関東地方整備局

1. 荒川ダム群等の現況

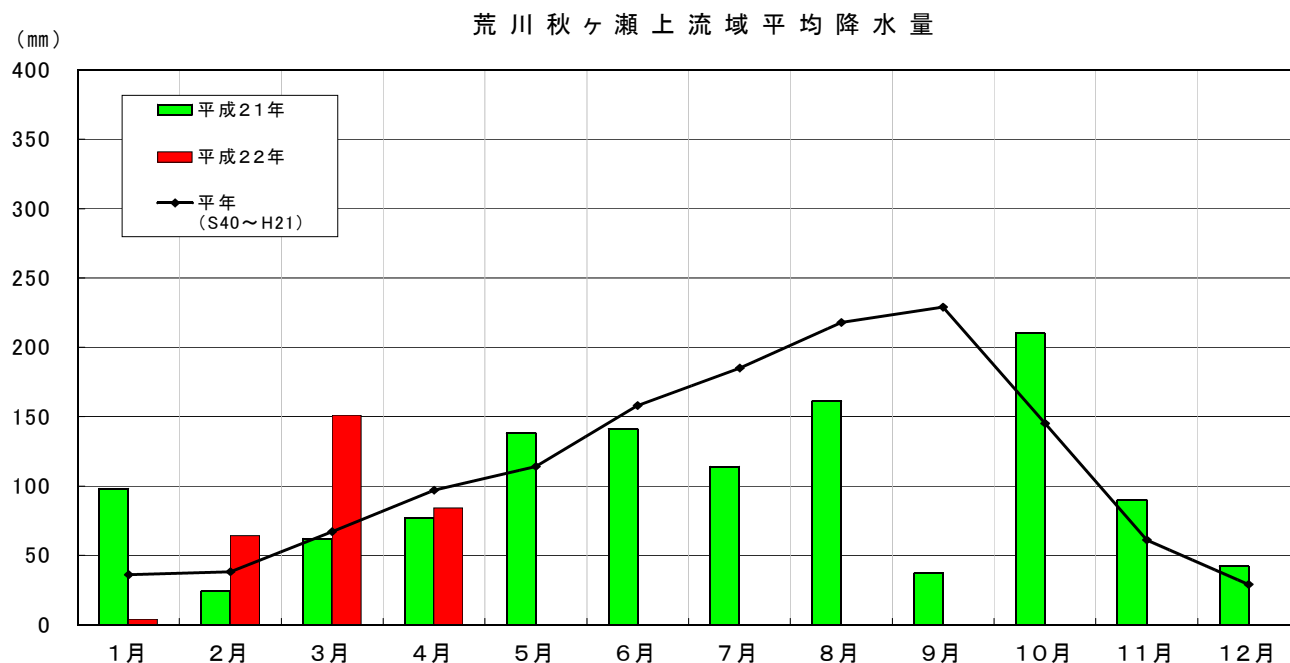
(1) 降水量

平成21年の荒川秋ヶ瀬上流域の降水量は、1月・5月・10～12月で平年値を上回ったものの、その他の期間で平年値を下回り特に9月は37mmとなり、統計期間（S40～H20）で一番少ない状況となっています。

平成22年は、1月の月降水量は4mmと平年を大きく下回り、統計期間で6番目に少ない記録となりました。2～3月は平年を上回り、それぞれ64mm、151mmとなりました。1月から3月の累加降水量は219mm（平年1月～3月までの累加141mm）と平年の約155%となっています。

4月の月降水量は、19日までで84mmとなっています。（図－1、表－1参照）

図－1



表－1 荒川秋ヶ瀬上流域平均降水量

	単位 (mm)													摘要	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計		
昭和62年	16	29	66	8	66	88	146	103	280	91	46	36	975	利根川・荒川夏渇水	
平成2年	22	67	83	138	48	55	77	228	473	134	301	31	1,657	利根川・荒川夏渇水	
平成4年	26	15	118	136	117	250	87	177	63	285	52	29	1,355	荒川夏渇水	
平成5年	82	34	37	44	76	186	275	276	204	112	113	25	1,464	荒川夏渇水	
平成6年	42	44	64	25	111	103	152	142	344	119	21	24	1,191	利根川・荒川夏渇水	
平成7年	24	25	111	44	129	239	177	109	180	73	24	0	1,135	荒川夏渇水	
平成8年	1	22	55	62	80	47	204	32	314	74	57	17	965	利根川・荒川冬夏渇水	
平成9年	21	13	57	70	187	168	148	72	204	7	87	21	1,055	利根川・荒川冬渇水	
平成13年	98	17	98	30	179	120	69	279	444	247	67	9	1,657	利根川夏渇水	
平成21年	98	24	62	77	138	141	114	161	37	210	90	42	1,194		
平年 (S40～H21)	36	38	67	97	114	158	185	218	229	145	61	29	1,377		
平成22年	4	64	151	84									303		
平年比 (%)	11	168	225	87									22		

平成22年4月19日まで

※. 荒川取水制限実施月（一時緩和含む）

※. 秋ヶ瀬上流域面積 2,021km²

(2) 荒川ダム群の貯水状況

平成21年の荒川ダム群は、2月の少雨の影響で貯水量は平年を下回っていましたが、3月よりほぼ平年並の貯水量で推移しました。少雨の影響により8月中旬から9月末まで下流部の水利用に対して継続的な補給を行ったため、9月30日には貯水量が2,802万 m^3 （3ダム）まで低下し、3ダムとなった平成12年以降最低となりました。その後まとまった降雨もあり徐々に貯水量は回復し、12月には平年に対し84%まで回復しています。

平成22年に入り、3月の降水量が平年を大きく上回ったことから貯水量の回復に努め、平成22年4月20日9時現在の荒川4ダムの貯水量は、7,307万 m^3 （常時満水容量14,420万 m^3 に対して51%、平年の貯水量6,612万 m^3 に対して111%）と平年を上回っています。

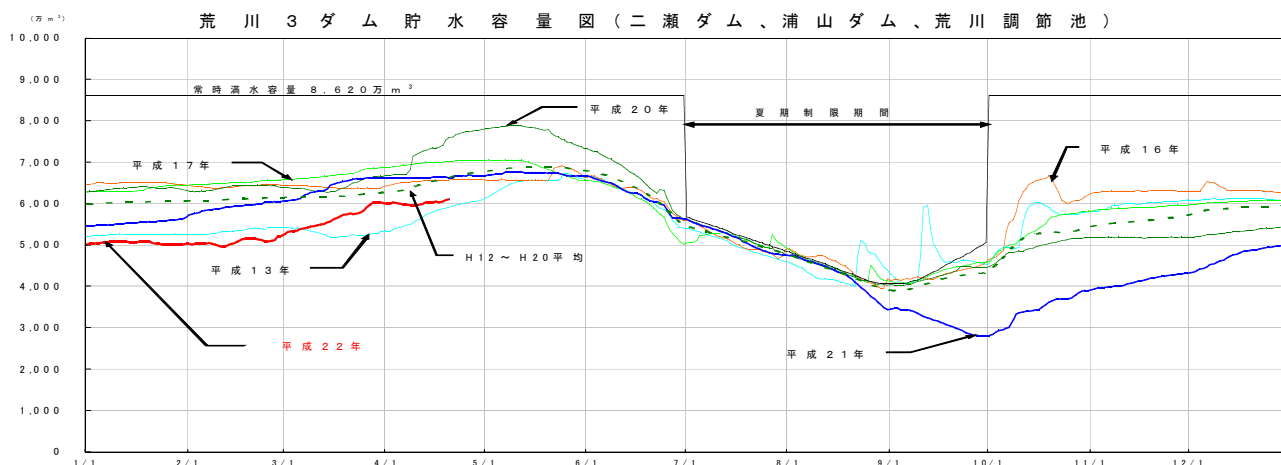
（表－2、図－2、3参照）

表－2 荒川4ダム貯水量

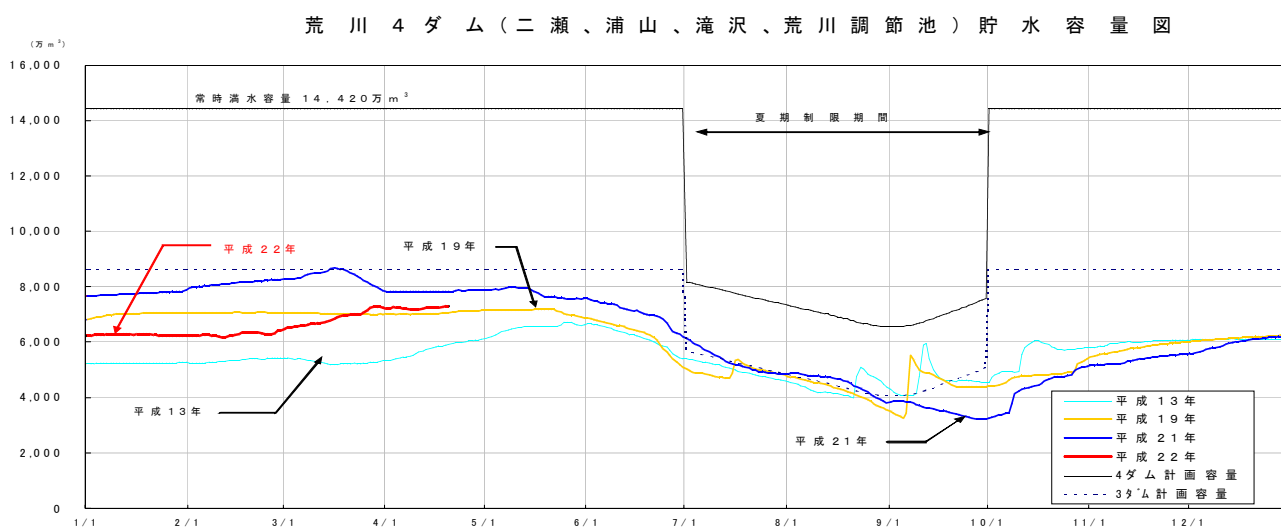
ダム名	有効容量 (万 m^3)	貯水量 (万 m^3)	平成22年 4月20日9時現在		
			貯水率 (%)	前日補給量 (万 m^3 /日)	平年比 (%)
二瀬ダム	2,000	1,730	87	－6	118
滝沢ダム	5,800	1,210	21	－1	－
浦山ダム	5,600	3,347	60	－17	80
荒川貯水池	1,020	1,020	100	0	105
4ダム合計	14,420	7,307	51	－24	111

1. 有効容量は、常時満水容量。
2. 貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合。
3. 前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。（プラスの場合はダムの集水区域からダムへ流入してくる水より、ダムから放流する量が多い）
4. 4ダム合計の平年比は、二瀬ダム、浦山ダム、荒川貯水池の平年貯水量の合計に対する割合。

図－2



図－3



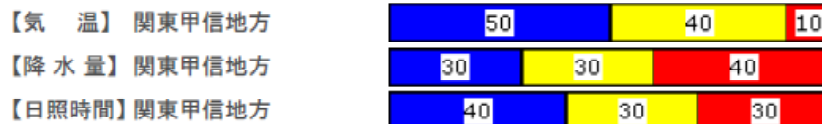
2. 今後の見通し及び対策（案）

（１）見通し

- ①. 平成２２年４月１６日発表の気象庁の１か月予報によると、４月１７日から５月１６日の関東甲信地方の降水量については、「多い」となっており、３月２５日発表の気象庁の３か月予報によると、降水量は、５月「平年並」、６月は「少ない」となっています。

１か月予報（平成２２年４月１６日発表）

<向こう１か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

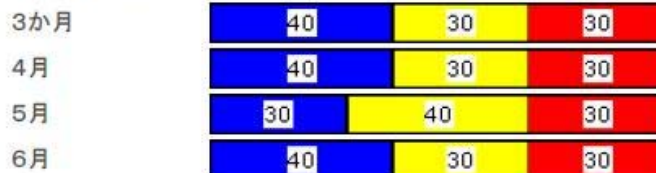


凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

３か月予報（平成２２年３月２５日発表）

【降 水 量】

〔関東甲信地方〕



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

- ②. 荒川４ダムの貯水量は平年を上回っていますが、これからは水需要の多い時期となることから、今後の降雨状況によっては、ダムの貯水量が不足すること考えられます。

（２）対策（案）

- ①. [荒川水系におけるダム群の貯水量の確保]

荒川ダム群においては、今後の降雨状況、農業用水や都市用水の水利用を踏まえて、きめ細かい運用を行っていきます。

このため、荒川ダム群の貯水量の状況や降雨状況の情報提供を引き続き、積極的に行っていきます。

- ②. [荒川水系渇水調整協議会の取り組み]

荒川水系渇水調整協議会としては、必要に応じ幅広い広報活動を通じて節水の協力を要請していくとともに取水制限等の調整が必要になった場合には、機動的に行っていきます。

3. 非洪水期における工事制限水位等について

H22. 4月時点

	工事主体	ダム名	工事名	工事概要等	工事期間														
					平成22年										平成23年				
					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
二瀬ダム	二瀬ダム管理所	二瀬ダム	砂れき搬出工事	容量確保のため、貯水池内に堆積した土砂の掘削工事を実施する。															
			制限貯水位 EL518.0m 制限期間 平成22年9月22日から平成22年11月30日		EL542.0 20,000千m3									EL542.0m 20,000千m3					
滝沢ダム	荒川ダム総合管理所	滝沢ダム	斜面对策工事	斜面对策工事を実施する。															
			試験湛水完了日 平成21年7月14日 制限貯水位 EL520.0m 制限期間 平成21年10月から平成22年6月末 制限貯水位 EL537.0m 制限期間 平成22年7月初旬から平成23年3初旬		EL565.0m 58,000千m3 EL520.0m 11,892千m3				EL537.0m 25,000千m3			EL565.0m 58,000千m3 EL537.0m 25,000千m3					EL565.0m 58,000千m3		